



TOEIC[®] Listening & Reading Test の 各パートの指導方法を考える — 学生の解答データの分析を通して —

井 上 治

概要 本論では、Google Forms を用いて集めた、『公式 TOEIC[®] Listening & Reading 問題集 1』の学生の解答データを分析することを通して、TOEIC[®] Listening & Reading Test のリスニング・セクションとリーディング・セクションのそれぞれのパートに関して、新たな指導方法を見つける、および、主観的な思い込みによる誤った指導方法を改めることを試みる。

キーワード TOEIC[®] リスニング&リーディング テスト, リスニング・セクション, リーディング・セクション, 指導方法, グーグル・フォーム

原稿受理日 2020年9月25日

Abstract This paper analyzes the students' answer data of the questions in "TOEIC[®] Listening & Reading Test Official Practice Book: Book 1," which was collected by using Google Forms. Through this analysis, the author aims to find new teaching methods, as well as incorrect teaching methods based on the subjective impression, for each part of the Listening and Reading sections of the TOEIC[®] Listening & Reading Test.

Key words TOEIC[®] Listening & Reading Test, Listening Section, Reading Section, Teaching Methods, Google Forms

1. はじめに

筆者は、これまでに、TOEIC® テスト、および、*TOEIC*® Listening & Reading Test (2016年8月から現名称、本論文では以下、「TOEIC®」と表記する) のリスニング・セクションの Part 2, Part 3, および、Part 4 に関して、その公式問題集の問題を分析することを通して、それらのパートの攻略法を、特に、TOEIC® 初級者⁽¹⁾ 向けに提示してきた。

これまででは、公式問題集のそれぞれの問題について、学生の実際の解答を分析するという機会がなかったが、今年度はリモート授業を実施する中で、その利点のひとつとして、Google Forms を用いて学生の解答データを集めることができています。

そこで、今回は、そのデータを分析することを通して、TOEIC® のリスニング・セクションとリーディング・セクションのそれぞれのパートに関して、新たな指導方法を見つける、および、筆者が思い込んでいた指導方法を改める、ということを試みてみたい。

今回使用しているテキストは、『公式 *TOEIC*® Listening & Reading 問題集1』の「TEST 1」で、対象学生は経済学部2年生36名で、1年次の2019年12月受験のIPテストの36名の平均スコアは576.5点(リスニング312.8点、リーディング263.8点、以下、数値に関しては小数点以下第二位を四捨五入したものを示す)である。そのときの学年の平均スコアは445.0点(リスニング252.6点、リーディング192.4点)となっており、今回の対象学生は学年の上位層に当たる。

対象学生が36名と少ないので、データを分析して導き出す事柄の正当性は必ずしも高いものとはならない一方で、学部の上位層の学生のデータであるため、それぞれの設問の難易度に関してはかなりの信ぴょう性があることから、ある一定の方向性は示すことができるのではないかと考えている。

それでは、Part 1 から順番に見ていくことにする。

(1) 「TOEIC IP テストを初めて受けた大学生の平均点」を目標とする学生を「TOEIC® 初級者」と表現してきた。最新のデータでは421点(リスニング233点、リーディング188点)(「*TOEIC*® Program DATA & ANALYSIS 2020」11)となっている。

2. Part 1 のデータから考察する

公開テストにおいては2016年5月29日実施回から、そして、団体特別受験制度 (IP: Institutional Program) においても2017年4月以降から、TOEIC® では新しい出題形式が導入され、Part 1 に関しては、その設問数が10問から6問へと減ることとなった。

設問数の減少後は、Part 1 に関しては、演習する際には、次の3点のみに触れている。まずは、『TOEIC® Test 単語 頻度徹底マスター』(経済学部の1年生と2年生の英語基幹科目内で実施されている小テストの準備用テキスト) の、Part 1 の頻出語がまとめてある Unit 14 と Unit 15、および、「Part 1 頻出の熟語・構文・定型表現20」の語句を覚えておけば十分に対応できること、次に、公式問題集の Part 1 で出題されている、特に、正解の選択肢中で使用されている初見の語句をその都度追加して覚えておくこと、最後に、テスト全体の200問中のわずか6問であることから、このパートの結果がテスト全体の結果に大きな影響を及ぼすことはないので、6問中3問できれば十分だというぐらいの気持ちで受験すれば良いこと、を学生には伝えている。

以下の表は、今回のデータから、各セクション・パートの正答率をまとめたものである。

表1 全体、各セクション、各パートの正答率
(設問ごとの正答率は「資料1」として本論文の末尾に添付した)

全体	66.3%		
リスニング・セクション	69.0	リーディング・セクション	63.6
Part 1	84.7	Part 5	65.0
Part 2	73.2	Part 6	60.6
Part 3	65.3	Part 7	63.7
Part 4	67.2	うち 1つの文書	68.0
		複数の文書	58.7
		うち 2つの文書	60.8
		3つの文書	57.3

すべてのパートの中で、予想どおり、Part 1 の正答率が最も高くなっている。このパートの中で正答率が最も高かったものは、問題番号1 (97.2%) で、その理由は、この設問だけが “She’s ~ing …” というように、共通の主語をもつ4つの動作を表わす文でそろえられているので、解答しやすいからである。一方、最も低かったものは、問題番号4 (69.4%)

で、この設問の正解の選択肢中に“awning”という、多くの学生がおそらく初見の、Part 1 特有の難易度が高い語句が出てきていることが、その原因であろう。

そうは言うものの、このパートに関しては、正答率が最も低い設問でさえ69.4%という高い数値であることから、これまでの指導方法を変更する必要はないと思われる。

3. Part 2 のデータから考察する

今回の全200問のデータに関しては、2020年度前期の授業の中で分割して演習したものを収集しており、Part 2 に関しては、「Part 1 の問題番号 1 から Part 2 の問題番号11まで」、「12から21まで」、および、「22から31まで」と3回の授業で実施した。

Part 2 の全25問を一度に演習した場合には、後半に集中力が落ちてくることから、さらに、公式問題集の Part 2 の構成では、設問が進むにつれて難易度がゆるやかに高くなっていく傾向にあることから、後半の設問の正答率が低くなるのが容易に推察できる。しかし、今回は3回に分割して実施しているので、集中力があまり落ちることなく演習できていることから、正答率は設問のより実質的な難易度を反映していると考えられる。

まず、以下の表は、「質問文の語数」から正答率を分析したものである。

表2 Part 2 全体の「質問文の語数」による正答率

語数	4	5	6	7	8	9	10	11	13	平均 正答率
設問数	1	2	4	4	3	3	5	2	1	
正答率	81.8%	86.4	86.4	54.7	81.9	73.3	65.2	80.9	58.8	73.2

質問文の語数が少なければ正答率が高くなり、多ければ低くなるであろうことは一般的に推測できることであり、実際に6語までの正答率はかなり高い数値になっている。また、全25問の質問文の平均の語数である8.1語を基準とすると、4語から8語までの正答率は76.0%、9語以上の正答率は69.7%となっている。

Part 2 に関しては、授業では設問演習後に「質問文のディクテーション」を必ず行っており、前期は基本的に質問文の出だしから6語をディクテーションさせてきた。ところが、データを見ると、当該学生は質問文が6語までの設問にはほぼ対応できていることから、後期の授業では、当該学生の Part 2 に対応する能力をさらに伸ばすためには、出だしから7語ないしは8語を中心にディクテーションをさせることが良いようである。

一方で、全体を見ると、7語の正答率が54.7%、そして、8語以上の正答率はすべてが

7語の正答率を上回っており、「質問文の語数が少なければ正答率が高くなり、多ければ低くなる」ということには必ずしもなっていない。

そこで、次に、「質問文の種類」という観点から考えてみたい。質問文の種類分けは、過去の筆者の論文においてと同様に、国際ビジネスコミュニケーション協会が公式問題集以外に発行している、TOEIC® 対策本である『TOEIC® テスト 公式プラクティスリスニング編』のPart 2の章立て（「Unit 5 WH 疑問文」, 「Unit 6 Yes/No 疑問文, 選択疑問文」, 「Unit 7 依頼・許可・提案・勧誘の文」[以下, 依頼・提案の文], 「Unit 8 付加疑問文と否定疑問文」[以下, 付加・否定疑問文], 「肯定文と否定文」) に合わせた。

表3 Part 2全体の「質問文の種類」による正答率

質問文の種類	出題数	正答率	質問文の種類	出題数	正答率
WH 疑問文	12	80.0%	依頼・提案の文	4	64.9
Yes/No 疑問文	2	89.5	付加・否定疑問文	3	63.9
選択疑問文	2	64.7	肯定文と否定文	2	55.9

When ~ ? ならば「時」を, Where ~ ? ならば「場所」を表わす選択肢を解答として選べばよい, すなわち, ピンポイントで正答を引っ張ることができる「WH 疑問文」の正答率が最も高く, 一方で, 感想なのか意見なのか事実を述べているのかが瞬時に判断しづらいこと, また, 質問文が疑問文でないことでさまざまなパターンの答え方があり得ることから, 「肯定文と否定文」の正答率が最も低くなるのが事前に予測でき, ほぼ近い結果となった。

「ほぼ近い」結果と表現したのは, データでは, 「Yes/No 疑問文」の正答率が最も高くなっているからなのであるが, これに関しては, 「Yes/No 疑問文」のサンプル数が少なかったための誤差であろうと思われる。「Yes/No 疑問文」の答え方のパターンは, Yes の内容であっても, No の内容であっても, また, それ以外の内容であってもよく, 「WH 疑問文」の答え方のパターンとくらべるとかなり幅広くなるので, その難易度は「WH 疑問文」よりも高くなるはずである。したがって, 今後も多くの設問に関してデータを取り続けることができれば, 「WH 疑問文」の正答率を下回ってくると考えている。

ピンポイントで正答を引っ張ることができることが大きな特徴である「WH 疑問文」の質問文は, Part 2の全25問の出題数の中で, 常にほぼ半数を占めている。さらに, 「WH 疑問文」の質問文の正答率は, 「WH 疑問文以外」の質問文の正答率である67.0%を13ポイントも上回っており, 「WH 疑問文」の質問文の設問の難易度がより低いことが数

値的にも明らかになった。したがって、TOEIC® 初級者にとっては、Part 2 に関しては、「まずは、『WH 疑問文』の質問文の設問にしっかりと対応していくこと」がスコアを伸ばす重要なポイントであることはまちがいない。

最後に、12のサンプル数がある「WH 疑問文」の質問文に関して、語数との相関関係を見ておこう。

表4 Part 2 の「WH 疑問文」の「質問文の語数」による正答率

語数	4	5	6	7	8	9	10	平均 正答率
設問数	1	1	3	2	1	2	2	
正答率	81.8%	90.9	97.0	61.4	72.7	79.7	70.5	80.0

Part 2 の全25問の質問文の平均の語数である8.1語を基準に考えると、「WH 疑問文」に関しては、4語から8語までの正答率は82.4%、9語以上の正答率は75.1%であり、語数が増えると正答率が下がっている。一方、「WH 疑問文以外」に関しては、4語から8語までは67.5%、9語以上は66.7%と正答率がほぼ変わっていないことから、「WH 疑問文以外」の質問文は語数の影響を受けないようである。

このことから、「WH 疑問文」の質問文に関しては、質問文の語数が増えると、その後半の情報のせいで前半の重要な情報（WH 疑問詞、助動詞や BE 動詞が示す時制、主語の人称、述語動詞）を忘れてしまう現象が起きていることが推察される。「WH 疑問文」の質問文では前半の情報を忘れてしまうと正答にたどり着くことができなくなる一方で、「WH 疑問文以外」の質問文では、例えば、「依頼・提案の文」であることがわかれば “That’s a good idea.” のような「定型の返答」を選択すればよい場合が多い、あるいは、「付加疑問文」ならば最後の部分で主語の人称と時制の情報が繰り返される、といったように、質問文の種類さえ把握できれば、質問文の前半の情報を忘れてもある程度の対応ができることが推察される。

以上のことから、「WH 疑問文」の質問文に関しては、語数の多い質問文を用いて、「後半の情報に惑わされずに前半の情報をしっかりと把握する」練習を、一方、「WH 疑問文以外」の質問文に関しては、それぞれの質問文の特徴をしっかりと理解した上で、「質問文の種類ごとに『質問文と答え方のパターンに慣れる』」練習をしていくことが、Part 2 では有効な指導法であることがわかった。

4. Part 3 のデータから考察する

今回のデータに関しては、複数回の授業で分割して演習したものを収集しているが、Part 3 に関しては、問題番号32から70までを授業で一度に実施した。まず、当該授業以前の2回の授業において、Part 3 と Part 4 の攻略の大前提である「質問文（と選択肢）の先読み」をして設問を解答していく練習を、別教材を使って行なった。その際に特に留意したことは、「3問セットの1問目の質問文の音声が終わるまでに、3問の解答を終えてしまうこと」であった。そのようにできれば、「次のセットの音声が始まるまでにおよそ25秒の時間が生まれ、次のセットの『質問文（と選択肢）の先読み』ができる」からである。

そして、当該授業では、「音声を Part 1 の Directions からスタート」→「Part 1 の問題番号1と2を解答」→「音声は Part 2 の Directions へ飛ぶ」→「Part 2 の問題番号7から11までを解答」→「音声は Part 3 の Directions へ飛び、そのまま Part 3 の最後まで解答する」という方法で演習を行なった。その理由は、できるだけ実際のテストに近い方法で演習するためであり、受講生には「各パートの Directions の時間」と「Part 3 の次のセットの音声が始まるまでの時間」という2種類の時間を活用して、「質問文（と選択肢）の先読み」をするように指導した。

まず、以下の表は、Part 3 の全13セットを、前半・中盤・後半という視点から分析したものである。

表5 Part 3 を3つの部分に分けた正答率

	前半の5セット	中盤の4セット	後半の4セット	平均 正答率
設問数	15	12	12	
正答率	68.4%	67.5	59.4	65.3

筆者は、新しい出題形式の導入以前から、Part 3 がリスニング・セクションでは最も難易度の高いパートだと考えていた。そのパートの設問数が10セットから13セットに増えたわけなので、「前半の5セット」ではそこそこの正答率が残せても、集中力が切れ始めるであろう「中盤の4セット」で5ポイント程度下がり、疲れがかなり出てくる「後半の4セット」ではそこからさらに10ポイント近くまで下がるのではないかと予想していた。結果を見ると、「中盤」から「後半」へのおよそ8ポイントの降下は予想どおりだったが、

「前半」と「中盤」で正答率がほぼ変わっていないことは意外に感じた。しかし、逆に考えてみれば、『質問文（と選択肢）の先読み』が上手くできれば、13セットの3分の2ぐらいまでは十分に戦える」ことがはっきりとした。したがって、今後も「質問文（と選択肢）の先読み」の練習を多く取り入れることを通して、受講者に『先読み』さえしっかりできれば、Part 3は思っているよりも難易度は低い」ことを実感させたい。

次に、各セットの1問目・2問目・3問目という視点と、表5の前半・中盤・後半という視点を組み合わせたものが、以下の表である。

表6 Part 3の「各セットの問題順」と「3つの部分」を組み合わせた正答率

	13セット全体	前半の5セット	中盤の4セット	後半の4セット
1問目	69.7%	74.8	66.1	66.9
2問目	62.5	67.7	70.2	48.4
3問目	63.8	62.6	66.1	62.9

演習時には、1問目は必ず「先読み」し、2問目と3問目については、取り組みやすい方を選んで「先読み」するように指導している。その選択の基準は、「理由の Why・内容の What よりも、正答をピンポイントで聴き取ることができる Who・When・Where などの WH 疑問詞」と「質問文と選択肢がより短い方」の2点である。

1問目に関しては、必ず「先読み」ができていくということからも、集中力のある「前半の5セット」で80%を軽く超えてくると予想していたが、74.8%という結果であった。これは、Part 3 がリスニング・セクションで最も難易度の高いパートであることをはっきりと表わしているといえる。その一方で、「前半の5セット」の1問目以外では、「後半の4セット」の2問目を除くと、極端な数字の差が出ず、65%前後の正答率があることから、「質問文（と選択肢）の先読み」が上手くできている受講者は、疲れを感じながらも十分に対応できていることがわかる。

「後半の4セット」の2問目の正答率が48.4%と低くなっているが、これについては、難易度の高い設問が4問の中にたまたま混ざっているということ以外に、新しい出題形式である「図表を見て答える設問」が2問含まれていることが原因のようである。その2問とは、66番“Look at the graphic. Which article's deadline will be changed?”（正答率45.2%）と、69番“Look at the graphic. What is the woman missing?”（35.5%）である。筆者としては、「理由の Why・内容の What よりも、正答をピンポイントで聴き取ることができる、Who・When・Where などの WH 疑問詞」の設問であるだけでなく、図表が大き

なヒントとなるので、正答率は他の設問パターンよりも高くなると考えていた。しかし、その考えはまちがっていたようで、逆に、「図表」も「選択肢」も見なければならず、さらに、「ピンポイントで聴き取ることができる」ということは、「その箇所を聴きのがしてしまうと解答できない」ため、難易度が高い設問になるようなのである。

そこで、何度も読み直せるリーディング・セクションとは異なり、「正答のヒントになる箇所を聴きのがしてしまうと解答できない」リスニング・セクションにおいては、「Who・When・Where などの WH 疑問詞」の設問は実は難易度が高い設問なのかもしれない、という考えから、Part 3 の設問のタイプを、「会話のテーマを問う設問」、「理由や内容を問う Why・What の設問」、「人・場所・時などを具体的に問う Who・When・Where などの設問」、そして、新しい出題形式である「会話中の表現の意図を問う設問」という 4 種類に分けて比較してみたものが、以下の表である。

表 7 Part 3 の「各セットの問題順」と「設問の種類」を組み合わせた正答率
(スラッシュのうしろの数字は13問中の設問数)

	全体	テーマ	Why / What	Who / Where / When	意図
1 問目	69.7%	76.6 / 4	79.0 / 4	54.8 / 4	64.5 / 1
2 問目	62.5	71.0 / 1	70.2 / 8	44.1 / 3	48.4 / 1
3 問目	63.8	0 / 0	63.9 / 11	51.6 / 1	74.2 / 1

上で推察したとおり、「Who・When・Where などの設問」は、取り組みやすい設問が並ぶはずの 1 問目においてさえ低い正答率になっており、このことから、Part 3 ではピンポイントの正答のヒントになる箇所は聴きのがしやすいことがわかる。それよりも、会話全体から推測できる「会話のテーマを問う設問」や、ピンポイントではなく、会話のやり取りから類推できる「理由や内容を問う Why・What の設問」の方が、Part 3 では正答にたどり着きやすいことがわかる。

以上の分析から、Part 3 に関しては、「質問文（と選択肢）の先読み」の練習を徹底することが重要である一方で、3 問セットの 2 問目と 3 問目のどちらを選ぶかについては、従来の指導方法を改め、ピンポイントで正答のヒントの箇所を聴き取らなければならない「Who・When・Where などの WH 疑問詞」よりも、（2 問目と 3 問目では「会話のテーマを問う設問」がほぼ出題されないことから、）会話のやり取りから推測できる「理由の Why・内容の What の WH 疑問詞」の質問文の設問を選択するように指導していきたい。

5. Part 4 のデータから考察する

Part 4 に関しては、「問題番号71～85」、「86～100」という5セットずつを2回の授業に分けて演習した。練習方法としては、音声をPart 3の最後のセットの問題番号69の質問文からスタートし、そのまま続けてPart 4のDirections、演習する5セットの音声へと続けていく。問題番号69の質問文が始まるまでにPart 3の最後のセットの解答を終えることができれば、問題番号69と70の質問文の音声20秒とPart 4のDirectionsの音声30秒との合計およそ50秒という時間を作り出すことができ、Part 4の「質問文(と選択肢)の先読み」ができる。実際のテストにおいても、このように実践してほしいので、上記のような方法で演習を行なっている。

演習時には、Part 3の場合と同様に、1問目は必ず「先読み」し、2問目と3問目については、取り組みやすそうな方を選んで「先読み」するように指導している。選択の基準もPart 3の場合と同様で、「理由のWhy・内容のWhatよりも、Who・When・WhereなどのWH疑問詞」を、そして、「質問文と選択肢がより短い方」を選ぶように指導してきた。

Part 4の10セット30問を1回で演習する場合には、集中力が切れてくる後半の設問の正答率が自然に下がるので、後半の設問の本来の難易度が見えにくくなるが、今回は5セット15問ずつ演習しているので、設問のより純粋な難易度が測定できているといえる。まずは、2回分の正答率と、各回の1問目・2問目・3問目の正答率を組み合わせた表である。

表8 Part 4の各回の全体の正答率と「各セットの問題順」の正答率

	全体	1問目	2問目	3問目
71～85	72.2%	78.9	74.3	63.4
86～100	62.2	80.6	55.9	50.0

まず、「問題番号86～100」のセットにおける2問目の数値の低さの要因は、Part 3においてすでに指摘した、「図表を見て答える設問」が5問中3問を占めていることである。問題番号99番(正答率38.2%)を筆頭に、3問ともが「問題番号71～85」の2問目の正答率である74.3%を下回っている。Part 3とPart 4で同様の結果が出ていることから、「図表を見て答える設問」は難易度が高い設問と認識してまちがいないようである。

次に、「問題番号86～100」のセットにおける3問目の数値の低さについてである。TOEIC®

に新しい出題形式が導入された際に、TOEIC® 初級者でも取り組みやすい Part 1 と Part 2 の設問数が減った一方で、設問数が増えたのは Part 4 ではなく、Part 3 であった。これは、TOEIC を運営する国際ビジネスコミュニケーション協会が、Part 3 よりも Part 4 の方を難易度が高いパートと設定しているからに他ならない。なぜならば、運営側は、「スコアの持つ意味や難易度に変更はありません」(『TOEIC® テスト 公式問題集 新形式問題対応編』9) と、新しい出題形式の導入後も全体の難易度は変わっていないとしているわけなので、最も難しいパートの設問数を増やしてしまうと、全体の難易度のバランスが取れなくなってしまうからである。そこで、最難関と協会が考える Part 4 ではなく、Part 3 の設問数を増やしたと考えるのが自然だからである。

つまり、Part 4 は、「リスニング・セクションの Part 7」の位置づけになっているので、後ほどくわしく見るが、Part 7 の「複数の文書」を見て答える問題の 4 問目や 5 問目に難易度の高い問題が出題されているのと同様に、Part 4 の後半のセットの 3 問目に難易度の高い問題が出題されていると考えられるのである。そして、それが事実であることを、50.0% という数値が証明しているのではないかと筆者は考えている。

最後に、1 問目の正答率は、両方のセットにおいて、Part 3 の「前半の 5 セット」の 1 問目の正答率である 74.8% を上回っている。そして、上で考察したように、Part 4 の後半のセットの 2 問目や 3 問目はかなり難易度が高いのに、表 1 で確認したように、Part 4 は正答率で 1.9 ポイントだけ Part 3 を上回っている。つまり、Part 4 が正答率で Part 3 を上回っている要因のひとつは、1 問目の難易度の差にあると考えられる。そこで、次の表で、Part 4 と Part 3 の 1 問目に関して、4 種類の設問のタイプから正答率を比較してみた。

表 9 Part 4 と Part 3 の 1 問目の設問について、「設問の種類」から見た正答率
(スラッシュのうしろの数字は、Part 4 は 10 問中、Part 3 は 13 問中の設問数)

	全体	テーマ	Why / What	Who / Where / When	意図
Part 4	79.7%	73.2 / 3	76.5 / 2	84.9 / 5	0 / 0
Part 3	69.7	76.6 / 4	79.0 / 4	54.8 / 4	64.5 / 1

この表ではっきりしていることは、「人・場所・時などを具体的に問う Who・When・Where などの設問」の正答率が、Part 4 では Part 3 よりも 30 ポイントも高くなっていることである。そして、この部分の正答率の結果が、Part 4 が Part 3 をトータルの正答率で上回ることに繋がっているといえる。

しかし、前項で考察したように、Part 3 においては、正答のヒントになる箇所をピンポイントで聴き取って解答する「Who・When・Where などの WH 疑問詞の設問」は、「そ

の箇所を聴きのがしてしまうと解答できない」ことから、正答のヒントが1箇所だけに限定されない「会話のテーマを問う設問」や「理由や内容を問う Why・What の設問」にくらべると、難易度が高い設問であったはずである。Part 4においては、なぜ数値が高くなっているのであろうか。

そこで、Part 4における3問セットの1問目の「Who・When・Where などの設問」を具体的にしてみると、問題番号89の “Who most likely are the listeners?” を除くと、残りの4問は、71 “What does the speaker's business sell?”, 74 “What does the speaker most likely work?”, 80 “Where does the speaker work?”, 98 “What industry does the speaker work in?” というように、問い方は異なるものの、すべて話し手の「職種」を問う設問になっている。そして、結局のところ、問題番号89も含めた5問すべてが、1箇所を聴きのがしてしまうと解答できないピンポイント・タイプの「Who・When・Where などの設問」ではなく、正答のヒントが1箇所だけに限定されない「会話のテーマを問う設問」や「理由や内容を問う Why・What の設問」に近いタイプの設問になっているのである。

一方、Part 3における3問セットの1問目の「Who・When・Where などの設問」を具体的にしてみると、問題番号41の “Where does the woman most likely work?” (正答率 67.7%) と68 “Where does the man most likely work?” (64.5%) は、Part 4の「Who・When・Where などの設問」と同じタイプになっているが、50 “Who is Mr. Park?” (38.7%) と62 “What is scheduled for Tuesday?” (48.4%) は、正答のヒントが1箇所だけに限定されるタイプになっている。

このように、Part 4の1問目では、正答のヒントが1箇所だけに限定されないタイプ、すなわち、初級者にとっても取り組みやすいタイプの「Who・When・Where などの設問」が多く用いられている。このような現象が発生している理由は、先ほど指摘した、協会側がおそらく Part 4を難易度が最も高いパートと設定しているからであり、したがって、Part 4の難易度が高くなりすぎないように、1問目を難易度を抑えた設定にして調整しているからであろうと筆者は推察する。

以上、データに基づいて考察をしてきたが、Part 4に関しては、特に1問目に関して「Who・When・Where などの WH 疑問詞の設問」が難易度を低めに設定してあるので、しっかりと「先読み」をして確実に正解させていくこと、および、パートの後半の2問目・3問目は難易度が高い設問が多いので、後半は1問目を正解させることを重視して進めていくことを学生に伝えて、演習を行なっていきたい。

6. Part 5 のデータから考察する

Part 5 に関しては、「問題番号101～110」, 「111～120」, 「121～130」という10問ずつに分けて、3回の授業で演習した。筆者は、Part 7を1問でも多く解くことが、TOEICでの大きなスコアアップにつながると考えているので、Part 7にできるだけ多くの時間を残すため、Part 5の練習においては、1問につき30秒以内で解き、Part 5を15分以内に通過するように指導している。

Part 5の設問は、「文法問題」と「語句問題」の2種類に分けられる。授業では、「文法問題」に関しては、「TOEIC® Part 5 文法問題 頻出パターン20+ α 」という頻出文法事項をまとめたものを受講者に配付し（「資料2」として本論文の末尾に添付した）、演習のあとに各設問がどのパターンに当てはまるかを確認して、受講者が出題パターンに慣れるように指導している。一方、「語句問題」に関しては、問題文に知っている単語が増えると、問題文を速く正確に読めるようになり、正解の選択肢にたどり着きやすくなること、また、選択肢に知っている単語が増えると、4択の問題が3択や2択の問題になり、これもまた正解にたどり着きやすくなることから、現在のところは、前述の『TOEIC® Test 単語頻度順徹底マスター』掲載の語句が問題文や選択肢に多く出てくるので、掲載の語句をできるだけ早くマスターすること、と伝えることにとどまっており、有効な指導法が残念ながら見つかっていない。今回のデータ分析で、有効な指導法を見つけることができるだろうか。

それでは、まずは、「文法問題」と「語句問題」の正答率を見てみよう。

表10 Part 5の「文法問題」と「語句問題」の正答率

	設問数	正答率
文法問題	19	71.1%
語句問題	11	54.4

筆者は、「語句問題」の正答率は「文法問題」のそれよりも10ポイント程度低くなることを予想していたので、10ポイントを超えて大きく下回るこの結果は、大きな驚きであった。しかし、逆に考えれば、かなりはっきりとした数値の違いが出たので、受講者に今回の数値を伝えて、「語句問題」には時間を使いすぎないように指導していくことはできる。

しかし、それは後ろ向きな指導法なので、「語句問題」の正答率を伸ばすことができる

指導法を探すべく、「語句問題」における問題文の語数と正答率の関係を見たものが以下の表である。

表11 Part 5 の「語句問題」の「問題文の語数」による正答率

語数	12	13	14	15	16	17	19	20	平均 正答率
設問数	2	1	2	1	2	1	1	1	
正答率	76.4%	57.1	38.9	40.0	79.2	28.6	31.4	52.8	54.4

「文法問題」に関しては、例えば、問題番号103は、“The product review says that the Cozy Days space heater is ----- to warm up than similar products.”（下線部は筆者）という17語の長めの問題文であるが、キーワード than という1語から正答の(B) slower を選ぶことができる。すなわち、穴埋め部分の前後数語を見るだけで正答にたどり着くことができる場合が多いので、「文法問題」に関しては、問題文の長さは設問の難易度にほとんど影響を及ぼさない。

一方、「語句問題」に関しては、基本的には問題文全体の意味が分かれば正答を選択しやすくなる。したがって、問題文の語数が増えて文が長くなると、それだけ意味を把握するのに時間がかかったり、さらに、構文が複雑になっていると、問題文全体の意味を把握しづらくなったりするので、問題文の語数と設問の難易度には何か関係があるかもしれない、と考えたわけだが、表の結果から見ると、残念ながらあまり関係がないようである。やはり、「語句問題」に関しては、問題文と選択肢に出てくる語句をどれだけ知っているかにかかっているようだ。

以上のことからすると、「文法問題」に関しては、頻出文法事項に慣れていくことで十分に対応できるようになるが、「語句問題」に関しては、地道に各人が語彙力を強化していくしかないようである。

7. Part 6 のデータから考察する

Part 6 に関しては、全4セット16問を1回の授業で演習した。筆者は、このパートに関しても、Part 7 にできるだけ多くの時間を残すため、演習の際には、1問につき30秒以内で解き、パート全体を8分以内に通過するように指導している。設問のタイプ上、Part 5 とくらべると解くのに時間がかかるパートではあるが、時間をかけ過ぎずに通過することを強く意識して取り組むように指導している。

このパートは1回で演習したので、8分という目安の時間設定から、後半のセットに関しては、解答の残り時間がかなり少なくなっていることが想定される。そこで、まずは、セットごとの正答率を見てみたい。

表12 Part 6 のセットごとの正答率

パート全体	1セット目	2セット目	3セット目	4セット目
60.6%	71.0	61.5	56.6	53.4

予想どおり、1セット目に関しては、結果として他のセットよりも時間をかけて解くことになってしまうため、正答率が最も高く、2セット目以降は徐々に下がっていている。解答時間が限られていることから、正答率が後半に下がることは十分に想定できることだが、筆者が注目したい点は、3セット目と4セット目が予想ほど下がらなかったことである。

その要因は、このパートの設問のタイプが、「文法問題」、「語句問題」、「文全体の流れから、適切な動詞の時制を選ぶ問題」、「文のつながりから、適切な接続詞などを入れる問題」、「文のつながりから、適切な一文を入れる問題」という5つに固定されていることにある。そして、Part 6を演習する前には、受講生にこの5つの設問パターンを紹介し、「自分の得意なパターンの設問を中心に取り組むこと、苦手なパターンの設問は良い意味で適当にして先へと進むこと、そして、4セット目で時間がなくなってきた場合には得意なパターンの設問だけをする」と指導しているため、この指導が、3セット目と4セット目における正答率の激しい落ち込みを回避しているのではないかと、筆者は考えている。

そこで、Part 6における、この5つの設問タイプごとの正答率を見てみることにする。

表13 Part 6 の「設問の種類」から見た正答率 (スラッシュのうしろの数字は、16問中の設問数)

全体	文法	語句	動詞の時制	接続詞など	一文挿入
60.6%	64.0 / 7	70.0 / 4	58.8 / 1	0 / 0	46.3 / 4

今回は、「適切な動詞の時制を選ぶ問題」と「適切な接続詞などを入れる問題」に関しては、サンプル数の関係でコメントはできないが、予想どおり、「適切な一文を入れる問題」の正答率が最も低かった。しかし、この設問パターンが50%を下回ってくることは予想していなかったため、受講者にはこの結果をしっかりと伝え、「適切な一文を入れる問題」に取り組むべきか、あるいは、良い意味で適当にして先へ進むべきか、という各自が立てる戦略の参考にしてもらいたいと思う。

それよりも筆者が注目した点は、「語句問題」の正答率が、Part 5における「語句問題」の54.4%という数値を大きく上回ったことである。このことから、「語句問題」に関しては、ひとつの文から判断しなければならないPart 5のタイプよりも、前後の文・あるいはパッセージ全体の流れを含めて判断ができる、つまり、判断する際の情報量が増えるPart 6のタイプの方が、正答にたどり着きやすいということがわかる。

一方、「文法問題」に関しては、Part 5の71.1%という正答率から7ポイント程度下がっているが、これは、「語句問題」とは逆に、Part 6の「文法問題」では、前後の文の情報に惑わされるという現象が起きていると考えられる。

以上、Part 6に関しては、5つの設問のタイプを把握し、さらに、「一文挿入問題」の難易度が高いことや、Part 5とは異なり、「語句問題」の正答率が高いことなどを知った上で、自分が中心に解いていく設問のタイプ（ひとつとは限らない）を決めるように指導していきたい。そして、自分のPart 6の解き方さえ決めることができれば、現状よりも自分の正答率を、8分という目安の時間内で自然と上げていくことができるようになる、と筆者は考えている。

8. Part 7のデータから考察する

Part 7に関しては、「問題番号147～157」、「158～167」、「168～180」、「181～190」、「191～200」というように、5回の授業で演習を行なった。このパートの練習においては、1問につき最大1分間で解くように指導しているので、上記5回の演習では、11分、10分、13分、10分、10分という時間設定で実施した。54問を分割して演習することにより、疲れて集中力が落ちたり、タイムオーバーで最後の数問ができないということは避けることができたので、各設問の本来の難易度が測れたのではないかという反面、「前半の設問で時間の貯金をつくって後半の設問でその貯金を使う」という戦略を立てている受講生は多いと思うので、その作戦を実行できなかった分だけ、後半の設問の正答率は下がっているかもしれない。

表1で見たように、リーディング・セクションの正答率63.6%に対して、Part 7の正答率はほぼ同じ数値63.7%であった。つまり、このパートの出来がリーディング・セクション全体の出来になっている。Part 5と（「文法問題」と「語句問題」が半数を占める）Part 6が、「その文法や語句を知っているか知らないかの物知りクイズ」的な側面が強い一方、Part 7は読解問題なので、本文のどこかにある正答のヒントを見つけることさえできれば

必ず正答にたどり着ける、つまり、極端に言えば全問正解も可能なパートなのである。そういうわけで、筆者は、このパートのスコアを伸ばすことでリーディング・セクションのスコアを伸ばしたいと考えている。

あとは、Part 7 の54問の各問に関して、「本文のどこかにある正答のヒント」を見つけるための十分な時間をつくりだすことが大切である。そういうわけで、授業時には、Part 5 と Part 6 をできるだけ短い時間で通過し、Part 7 にできるだけ多くの時間を残すように指導をしている。

また、協会側からの配点の公表は一切ないものの、Part 5 や Part 6 を1問正解させるよりも、Part 7 を1問正解させる方がスコアが伸びると筆者が考えていることも、できるだけ多くの時間を残し、Part 7 を1問でも多く解答することを指導している理由である。

さて、表1で見たように、「1つの文書」を見て答える問題の正答率は68.0%、「複数の文書」のそれは58.7%で、「複数の文書」で正答率が10ポイント程度下がるのは予想どおりだった。まずは、10セット29問ある「1つの文書」の問題に関しては、問題番号が進むにつれて2問→3問→4問とセット当たりの設問数が増えていくが、その設問数の増加と難易度には関係があるのかどうかを見たものが次の表である。

表14 Part 7 の「1つの文書」を見て答える問題の設問数から見た正答率

1つの文書	2問	3問	4問
68.0%	69.3	63.2	70.6

設問数2問の正答率が80%→3問70%→4問60%というように、2問の正答率がかなり高く、設問数が増えるごとに下がっていくことを予想していたが、結果はそうではなく、「1つの文書」を見て答える問題に関しては、難易度の差はほぼないようである。これまでの授業では、「設問数が2問と3問のセットの設問がかなり取り組みやすいので、そこで正答率を稼ごう。一方、4問のセットの設問は難問が多いので、考えすぎないようにしよう」と指導してきたので、この点を改めなければいけない。

また、「複数の文書」を見て答える問題に関しても、予想外の結果となった。「2つの文書」と「3つの文書」の正答率はともに45%程度になると予想していたのだが、表1で見たように、「1つの文書」を見て答える問題のそれとくらべると10ポイント程度下がるものの、「2つの文書」の正答率60.8%、「3つの文書」57.3%というように、正答率が予想を10ポイント以上上回った。というわけで、今後の授業では、「『複数の文書』を見て答える問題は思っているほど難問ではないので、十分に時間を残して取り組むようにしましょう」

と指導していきたい。

ただし、「複数の文書」問題に関して、注意すべきことを示しているのが以下の表である。

表15 Part 7の「複数の文書」を見て答える問題の「各セットの問題順」の正答率

複数の文書	全体	1 問目	2 問目	3 問目	4 問目	5 問目
2つの文書	60.8%	69.8	76.2	69.1	42.3	46.5
3つの文書	57.3	67.6	61.8	61.8	48.0	47.1

それは、サンプル数が「2つの文書」では2、「3つの文書」では3と少ないので、今後もデータを取ることができれば、その動向を注視していきたいが、「2つの文書」においても「3つの文書」においても、4問目と5問目の正答率が15ポイントから20ポイントほど急落していることである。

「サンプル数が少ない」とは書いたが、筆者は、4問目と5問目に関するこの数値は今後も同様の結果が得られるであろうと考えている。その理由は、「リスニング・セクションのPart 7」と位置づけられているPart 4の後半のセットの3問目に難易度の高い問題が出題されていることである。つまり、Part 4の「後半のセット」とは、Part 7では「複数の文書」を見て答える問題に当たるので、この部分で難易度の高い問題が出題されることが想定できるからである。そういうわけで、演習時には、『複数の文書』を見て答える問題の4問目と5問目に関しては、かなりの難問であることが予想されるので、1問目から3問目までを中心に有効に時間を使って解いていくようにしよう」と指導していきたい。

Part 7の最後に、「設問の種類」から正答率を見たものが次の表である。

表16 Part 7の「設問の種類」から見た正答率
(スラッシュのうしろの数字は、54問中の設問数)

全体	63.7% / 54問	テーマ	73.8 / 5
Who / Where / When	64.9 / 17	語句	74.5 / 3
Why / What	60.7 / 14	意図	74.0 / 2
indicate / NOT	53.4 / 11	一文挿入	78.3 / 2

「Who / Where / When」は「人・場所・時などを具体的に問う Who・When・Where などの設問」, 「Why / What」は「理由や内容を問う Why・What の設問」, 「indicate / NOT」は「内容をぼんやりと遠回しに問う What is indicated / suggested / implied about ~? と、書かれていない内容を問う『NOT 問題』の設問」, 「テーマ」は「文書のテーマを問う設問」, 「語句」は「文書中の語句の意味を問う設問」, 「意図」は新しい出題形式で

ある「インスタントメッセージのやり取りの中での発言の意図を問う設問」, 「一文挿入」はこれも新しい出題形式である「ひとつの文を文書中の適切な箇所に挿入する設問」をそれぞれ指している。

まず, サンプル数の少ない3つの設問に関してであるが, 「語句」に関する高い正答率は予想どおりの結果だったが, 「意図」と「一文挿入」に関しては, 50%前後の低い正答率を予想していたので意外な結果となった。「意図」については, Part 3で62.4%, Part 4で39.1%であり, 「一文挿入」については, Part 6ではある箇所に4つの文から挿入すべき文を選択, Part 7ではある文を4つのどの箇所に挿入すべきかを選択というように出題方式は異なるが, Part 6では46.3%という数値であるのに対して, Part 7ではそれぞれが70%を軽く上回る数値となった。ただ, サンプル数の関係が大きいと思われるので今後を見守っていきたい。

残りの4つの設問に関しては, 「テーマ」の設問が最も高い数値となった。「テーマ」はPart 3でも75.5%, Part 4でも73.2%とそれぞれのパートで一番高い数値だったので順当な結果といえる。その次には「Who / Where / When」が続く。Part 3では50.4%と低い数値だったが, これはPart 3が最も難易度の高いリスニング・パートであることと, 正答のヒントがピンポイントになる場合は聴きのがしやすいことの影響を受けている, また, Part 4では72.9%と高い数値だったが, これはPart 4では正答のヒントが1箇所だけに限定されないタイプの設問が多く出題されていることが関係している, という点を考察してきた。そして, 筆者は, 「Who / Where / When」に関しては, Part 7でも70%を超えてくると予想していたが, 65%ほどにとどまった。このように「Who / Where / When」の数値が伸びない理由については, Part 7では設問が進むにつれて, 基本的に本文の情報量が増えていくので, その情報量の多さから, 正答のヒントとなるピンポイントの箇所が探しづらくなるからではないかと仮定し, 次の表にまとめてみた。

表17 Part 7の「Who / Where / When」の設問について, 1つのセットの設問数から見た正答率 (スラッシュのうしろの数字は, 17問中の設問数)

全体	2問	3問	4問	5問 (2つの文書)	5問 (3つの文書)
64.9% / 17問	75.8 / 3	67.6 / 4	64.4 / 3	66.2 / 4	49.0 / 3

サンプル数の関係で, 徐々に正答率が下がっていくというようにはならなかったものの, 本文の情報量が少ない「2問」の設問では「テーマ」とほぼ同じ数値となり, 情報量がかなり多くなる「5問 (3つの文書)」の設問では「indicate / NOT」を下回る数値となっ

た。「Who / Where / When」の設問に関しては、本文の情報量が多くなると正答のヒントとなるピンポイントの箇所が探しづらくなることで、難易度が高くなると考えていいようだ。

そして、「Why / What」と続き、サンプル数が多い方の中では、「indicate / NOT」が最も低い数値となった。「Why / What」に関しては、Part 3 で68.7%、Part 4 で64.8%という数値だったので、Part 7 での60.7%という数値は適切な範囲内だと思われる。「indicate / NOT」の設問は、言ってみれば、「Why / What」に含まれるわけだが、「ぼんやりと遠回しに」、つまり、こちらがある程度の推察をして解答しなければならない、また、正答以外の3つの選択肢の内容が書かれていることを確認しなければならない、というこのパターンの設問が難易度が高くなることは予想していた。「Who / Where / When」とは10ポイント、「Why / What」とも7ポイント開いているこの差は大きいといえる。

以上のことから、Part 7 に関しては、これまでどおり、「Part 5 と Part 6 をできるだけ早く通過して、このパートに時間を残すこと」を伝えながら、「セットの設問数が増えるにつれて難易度が高くなるわけではないので、『テーマ』と『Who / Where / When』の設問を中心に解き、難問に時間をかけずにどんどん先へ進めていくこと」、「その難問とは『indicate / NOT』であり、『複数の文書』の設問の4問目と5問目であること」を指導しながら演習を進めていきたい。

9. お わ り に

本論では、授業で使用している TOEIC® の公式問題集に関して、Google Forms を活用して受講者のデータを分析することを通して、TOEIC® のリスニング・セクションとリーディング・セクションのそれぞれのパートに関して、新たな指導方法を見つける、および、筆者が思い込んでいた指導方法を改める、ということを試みてきた。

筆者としてとても良かったと考えていることは、これまでは、リスニング・セクションばかりを取り上げてきていたが、今回は初めてリーディング・セクションを取り上げ、しかも、実際の受講生のデータから考察することができたということである。

結果としては、多くの新しい指導方法を見つけることができ、また、筆者が主観的に感じたことを提示していた指導方法に関して、それらを修正すべき理由を客観的に確認することができた。

もちろん、サンプル数が少ないということがあるので、結果をすべて鵜呑みにすること

はできないが、受講生の反応を見ながら指導を続けていき、それと並行して、新しいデータを収集することを通して、TOEIC® の指導方法をさらに充実したものにしていきたい。

引 証 文 献

- [1] Educational Testing Service. 『TOEIC® テスト 公式問題集 新形式問題対応編』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2016.
- [2] ——. 『公式 TOEIC® Listening & Reading 問題集 1』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2016.
- [3] ——. 『TOEIC® テスト 公式プラクティスリスニング編』東京：国際ビジネスコミュニケーション協会，2011.
- [4] 国際ビジネスコミュニケーション協会. 「TOEIC® Program DATA & ANALYSIS 2020」(https://www.iibc-global.org/library/default/toeic/official_data/pdf/DAA.pdf)：1-24.
- [5] 井上 治, Lance Burrows, 吉野 成美, Paul Leeming. 『TOEIC® Test 単語頻度順徹底マスター スコア450▶550▶650をめざす600語+66表現』東京：音羽書房鶴見書店，2014.

参 考 文 献

- [1] 井上 治. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート 2 攻略法—— ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』(近畿大学経済学会) 第 4 巻第 3 号 (2007年 3 月)：47-59.
- [2] ——. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート 2 攻略法再考——近畿大学経済学部の TOEIC® テストへの取り組みとともに」『生駒経済論叢』(近畿大学経済学会) 第 6 巻第 2 号 (2008年10月)：115-131.
- [3] ——. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート 3・パート 4 攻略法—— Educational Testing Service 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』(近畿大学経済学会) 第 8 巻第 1・2 号 (2010年11月)：19-34.
- [4] ——. 「TOEIC® テスト初級者のためのリスニング・セクション パート 3・パート 4 攻略法再考—— ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』(近畿大学経済学会) 第10巻第 2 号 (2012年 1 月)：1-16.
- [5] ——. 「TOEIC® テストの新形式問題におけるパート 2 の難易度を推察する—— ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』(近畿大学経済学会) 第14巻第 2 号 (2016年11月)：27-39.
- [6] ——. 「TOEIC® テストの新形式問題におけるパート 2 の難易度を再推察する—— ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』(近畿大学経済学会) 第15巻第 1 号 (2017年 7 月)：41-57.
- [7] ——. 「TOEIC® テストの新形式問題におけるパート 2 の難易度をさらに考察する—— ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』(近畿大学経済学会) 第16巻第 2 号 (2018年11月)：33-48.
- [8] ——. 「TOEIC® テスト新形式問題におけるリスニング・セクション パート 3・パート 4 の難易度と初級者のための攻略法—— ETS 作成問題の分析を通して」『生駒経済論叢』(近畿大学経済学会) 第17巻第 2 号 (2019年11月)：21-36.

資料1 (ここでは小数点以下第2位までを載せている)

	A	B	C	D		A	B	C	D
1	2.77	0	0	97.22	101	0	0	100	0
2	0	5.55	91.66	2.77	102	83.33	2.77	8.33	5.55
3	0	0	8.33	91.66	103	5.55	75	8.33	11.11
4	11.11	69.44	5.55	13.88	104	0	100	0	0
5	72.22	8.33	11.11	8.33	105	11.11	16.66	63.88	8.33
6	5.55	86.11	2.77	5.55	106	8.33	86.11	0	5.55
7	97.22	0	2.77		107	30.55	44.44	5.55	19.44
8	0	91.66	8.33		108	8.57	54.28	20	17.14
9	55.55	44.44	0		109	88.88	2.77	8.33	0
10	2.77	97.22	0		110	0	2.77	2.77	94.44
11	42.85	2.85	54.28		111	5.55	5.55	13.88	75
12	27.27	60.61	12.12		112	58.33	11.11	19.44	11.11
13	100	0	0		113	13.88	75	5.55	5.55
14	6.06	0	93.93		114	8.33	22.22	69.44	0
15	12.12	15.15	72.72		115	11.11	8.33	5.55	75
16	6.06	81.81	12.12		116	5.55	13.88	11.11	69.44
17	60.60	9.09	30.30		117	86.11	5.55	5.55	2.77
18	3.03	6.06	90.90		118	28.57	13.88	52.77	5.55
19	6.06	12.12	81.81		119	38.88	13.88	11.11	36.11
20	72.72	18.18	9.09		120	8.33	11.11	27.77	52.77
21	3.03	21.21	75.75		121	25.71	8.57	62.85	2.85
22	82.35	11.76	5.88		122	14.28	2.85	65.71	17.14
23	50	32.35	17.64		123	31.42	62.85	2.85	2.85
24	14.70	5.88	79.41		124	14.28	71.42	11.42	2.85
25	8.82	85.29	5.88		125	14.28	57.14	14.28	14.28
26	11.76	11.76	76.47		126	40	14.28	31.42	14.28
27	20.58	32.35	47.05		127	5.71	60	28.57	5.71
28	58.82	29.41	11.76		128	40	17.14	22.85	20
29	35.29	52.94	11.76		129	82.85	2.85	11.42	2.85
30	61.76	23.52	14.70		130	22.85	22.85	28.57	25.71
31	8.82	23.52	67.64		131	0	0	17.64	82.35
32	6.45	77.41	9.67	6.45	132	70.58	23.52	2.94	2.94
33	3.22	0	70.96	25.81	133	23.52	5.88	61.76	8.82
34	22.58	12.90	12.90	51.61	134	73.53	11.76	5.88	8.82
35	83.87	6.45	6.45	3.22	135	73.53	2.94	5.88	17.64
36	22.58	9.67	51.61	16.12	136	5.88	58.82	29.41	5.88
37	0	19.35	6.45	74.19	137	5.88	17.64	29.41	47.05
38	6.45	22.58	64.51	6.45	138	5.88	14.70	70.58	8.82
39	0	12.9	87.09	0	139	26.47	11.76	2.94	58.82
40	48.38	12.9	16.12	22.58	140	38.23	0	50	11.76
41	16.12	3.22	67.74	12.9	141	17.64	41.17	26.47	14.71
42	6.45	32.25	48.38	12.9	142	8.82	76.47	11.76	2.94
43	6.45	3.22	12.90	77.41	143	2.94	20.58	2.94	73.53
44	80.64	9.67	6.45	3.22	144	20.58	5.88	67.64	5.88
45	80.64	3.22	9.67	6.45	145	35.29	29.41	26.47	8.82
46	0	22.58	61.29	16.12	146	17.64	41.17	17.64	23.52
47	9.67	80.64	3.22	6.45	147	6.06	21.21	66.66	6.06
48	3.22	9.67	16.12	70.96	148	18.18	9.09	63.63	9.09
49	0	19.35	61.29	19.35	149	72.72	12.12	9.09	6.06
50	29.03	32.25	0	38.71	150	9.09	27.27	0	63.63

TOEIC® Listening & Reading Test の各パートの指導方法を考える (井上)

	A	B	C	D		A	B	C	D
51	9.67	6.45	70.96	12.9	151	9.09	39.39	39.39	12.12
52	6.45	70.96	12.90	9.67	152	9.09	0	0	90.91
53	12.90	12.9	3.22	70.96	153	9.09	66.66	12.12	12.12
54	74.19	9.67	6.45	9.67	154	90.90	6.06	0	3.03
55	58.06	6.45	12.90	22.58	155	72.72	6.06	15.15	6.06
56	6.45	74.19	9.67	9.67	156	18.18	42.42	27.27	12.12
57	6.45	12.9	64.51	16.12	157	9.09	69.69	12.12	9.09
58	6.45	12.9	6.45	74.19	158	56.25	12.5	12.5	18.75
59	6.45	9.67	74.19	9.67	159	15.62	21.87	21.87	40.62
60	6.45	77.41	16.12	0	160	6.25	18.75	53.12	21.87
61	80.64	6.45	6.45	6.45	161	3.12	6.25	0	90.62
62	48.38	19.35	16.12	16.12	162	75	0	0	25
63	35.48	41.93	12.90	9.67	163	3.12	9.37	68.75	18.75
64	16.12	51.61	22.58	9.67	164	9.37	84.37	6.25	
65	3.22	12.9	80.64	3.22	165	40.62	3.12	25	31.25
66	22.58	45.16	22.58	9.67	166	15.62	3.12	68.75	12.5
67	9.67	22.58	16.12	51.61	167	50	9.37	0	40.62
68	6.45	25.81	64.51	3.22	168	36.66	3.33	60	0
69	35.48	35.48	25.80	3.22	169	13.33	6.66	66.66	13.33
70	12.90	9.67	9.67	67.74	170	3.33	83.33	6.66	6.66
71	88.57	5.71	2.85	2.85	171	0	96.66	0	3.33
72	2.85	0	0	97.14	172	0	83.33	13.33	3.33
73	2.85	14.28	80	2.85	173	83.33	0	6.66	10
74	8.57	5.71	82.85	2.85	174	3.33	6.66	10	80
75	51.42	14.28	20	14.28	175	13.33	10	16.66	60
76	11.42	54.28	17.14	17.14	176	10	86.66	0	3.33
77	74.28	0	22.85	2.85	177	3.33	13.33	70	13.33
78	0	5.71	88.57	5.71	178	23.33	50	20	6.66
79	2.85	77.14	11.42	8.57	179	43.33	13.33	43.33	0
80	8.57	0	88.57	2.85	180	23.33	13.33	40	23.33
81	11.42	54.28	5.71	28.57	181	17.64	5.88	52.94	23.52
82	14.28	14.28	40	31.42	182	0	82.35	8.82	8.82
83	60	22.85	8.57	8.57	183	0	0	11.76	88.23
84	80	8.57	8.57	2.85	184	8.82	17.64	32.35	41.17
85	5.71	65.71	17.14	11.42	185	14.70	52.94	17.64	14.71
86	2.94	85.29	0	11.76	186	2.94	44.11	41.17	11.76
87	11.76	73.52	8.82	5.88	187	38.23	11.76	14.71	35.29
88	26.47	2.94	11.76	58.82	188	17.64	11.76	32.35	38.23
89	76.47	5.88	17.64	0	189	50	32.35	11.76	5.88
90	17.64	5.88	38.23	38.23	190	17.64	2.94	73.52	5.88
91	23.52	47.05	29.41	0	191	85.29	2.94	8.82	2.94
92	88.23	8.82	2.94	0	192	2.94	8.82	82.35	5.88
93	2.94	8.82	17.64	70.58	193	5.88	2.94	5.88	85.29
94	35.29	17.64	32.35	14.71	194	11.76	58.82	17.64	11.76
95	64.70	17.64	14.70	2.94	195	35.29	8.82	26.47	29.41
96	2.94	5.88	32.35	58.82	196	5.88	14.70	5.88	73.52
97	11.76	52.94	29.41	5.88	197	14.70	11.76	64.71	8.82
98	88.23	2.94	2.94	5.88	198	8.82	61.76	20.58	8.82
99	0	58.82	38.23	2.94	199	35.29	14.70	35.29	14.71
100	8.82	11.76	20.58	58.82	200	38.23	26.47	17.64	17.64

資料2

TOEIC® Part 5 文法問題 頻出パターン20+α

- パターン1 前置詞のうしろには必ず名詞（のはたらきをするかたまり）が入る
- パターン2 文の主語になれるのは名詞（のはたらきをするかたまり）だけ
- パターン3 「冠詞+カッコ+次のかたまり」ならば、カッコには名詞が入る
- パターン4 主語と動詞の単数・複数的一致
- パターン5 2つの「S+V」をつなぐのは前置詞（や副詞）ではなく接続詞
- パターン6 名詞（のかたまり）を「S+V」につなぐのは接続詞（や副詞）ではなく前置詞（句）
- パターン7 （冠詞+）形容詞（または形容詞用法の名詞）+名詞
- パターン8 形容詞の最上級「the most+形容詞」
- パターン9 be 動詞の補語になる形容詞 ★「名詞の複数形」「抽象名詞」が入る可能性もある。
- パターン10 be 動詞+副詞+形容詞
- パターン11 受動態に割り込む副詞：be 動詞+副詞+過去分詞
- パターン12 動詞と前置詞のあいだに割り込む副詞 ★名詞を入れないように注意
- パターン13 助動詞と動詞のあいだに割り込む、および、to不定詞に割り込む副詞
- パターン14 動詞の前または後に入り、動詞を修飾する副詞 ★名詞を入れないように注意
- パターン15 動名詞を修飾する副詞 ★前置詞のうしろに名詞の大きなかたまりを完成させる
- パターン16 TOEIC は both A and B, either A or B, neither A nor B, not only A but also B が大好き
- パターン17 and で並列関係になっている品詞
- パターン18 2つの名詞（のかたまり）をつなぐ現在分詞
- パターン19 代名詞の格
- パターン20 order, suggest, propose, demand, require, request, recommend などの動詞（その名詞形の場合もある）に続く that節中の動詞は「原形（仮定法現在形）」
- 最新パターン 「副詞+形容詞（特に過去分詞の形容詞的用法）+名詞」★副詞が直後の形容詞を修飾